

# 慈眼寺たより

第19号

平成27年12月  
春日井市下市場町  
「慈眼寺」

電話 81-6801  
編集 伊藤秀文

## ★安楽について☆

伊藤勝人

根拠のない先入観ですが、様々な人に「どんな生活を望みますか」と尋ねますと「働く必要のない生活」とか、安楽な生活を希望する人が多いような気がします。老人福祉、老人に安楽な生活をさせてあげれば、幸福になるだろうと 考えられることが多いと思います。でも本当にそうなのでしょうか。

この頃、たばこ屋というのが無くなって、だいたい自動販売機や、コンビニになっています。昔、たばこ店は間口が半間くらいのお店で、だいたいお婆さんがいたものです。お婆さんといっても、歳は今の僕と同じくらいだったかも知れません。駄菓子店も、たいていお婆さんがやっています。でも、近頃では、働くお婆さんの姿が見えませんが、老人ホームを訪れたとき

お婆さん達が何もしなくてもいい状態で暮らしていました。食事から、入浴、洗濯まで全部ホームの人がやってくれて、何もする事がないんです。その結果、無気力になっていく人が多いように思えました。こうした何もしない状態にしておくことが、本当に老人のためになっているのでしょうか。まったくストレスの無い状態で、何もする事が無いことが、本当に望ましいかどうかは、疑問だと思います。一週間に一日くらいはそういう日があったほうがいいかも知れませんが、毎日毎日何もする事がない状態を人間が喜ぶかどうか疑問です。

同じ境遇でも、物の考え方が違うだけで、幸福だと感じる人と、不幸だと感じる人がいます。普通なら考えられない程、不幸な境遇にあるのに、幸福そうにしている人がありえます。そう

いう人は少数ですが、実際に存在しています。ものの考え方でも、幸福か不幸かが決まることありません。本当は不幸でも何でもないのに、考え違いをしている為に、不幸になったり悔しい気持ちになるのではないのでしょうか。そうでなくても不幸のタネは多いのですから、残念なことには常識の中には、人を不幸にするような考えがかなり含まれています。そういう考え方は、冷静に吟味すると間違った先入観です。哲学では、どんなに当たり前に見えることでも正しいのかどうか疑います。

仕事をしたがる年齢のものに、「その仕事をまかせるには若すぎる」という事をよく言いますが、子供ならただで働かせることができそうですが、実際にはそれを、任せるほど信頼できないので、残念ながら任せることはできません。でも、子供は働きたがりです。働くことが苦痛だという観念を子供は持つていないからです。私たちは働くことは、苦痛だと思っていて、仕事がなくれば幸福になれるという気がします。だから、

老人福祉も、仕事を奪う方向に進んでいるように思われます。でも、簡単な仕事でもした方が、その人にとっては、喜びになることはあるかも知れません。昔、聞いた話ですが、ある村に親孝行で評判の息子がいたらしい。どんなことをしているかを見に行くと、その息子は野良仕事から帰ってきて、玄關で

## 《柳歌壇・俳壇》

●青柳山桜紅葉となりけり

●コーヒ一の染みのある本雪積もる

伊藤清雄

●雀来る家の庭先椿の木

●西日背に残り一畝種を蒔く

伊藤貴美子

●病室の母の手鏡冬日差す

●粥を煮る音のかすかや一葉忌

矢野孝子

●早朝に冷え込む庭の落ち葉掃く

●今日は何やら考えながら

●十日かけ庭の剪定やつと済む年金暮らし庭師も呼べず

今井正

「帰ったよ！」と言うと、お母さんが玄関まで出てきて、息子の足を洗ってあげて、ご飯から何から息子の世話を焼いている。息子は家事の手伝いも何もしないで、食べているだけなんです。なぜそれが親孝行で評判と言われるのでしょうか。それは子供のために、色々なことをしてやれるのが、親には喜びになるからです。親からそういう仕事を奪って、何もなくていいと言ったほうが、親孝行に思われますが、実際には親のためにはなっていないというんです。そういう話も聞きました。

こういう話を考えると、人間から仕事を取りあげることがその人の幸福になる、ラクにしていればいるほど、幸福だという考え方は疑わしく思われてきます。

何においても、価値観は人それぞれですが、ここ数十年の間に、私たちは気の毒だとか、かわいそうだとか、何か大事件が起これるとマスコミと一緒になって犯人探しをします。たて前が最優先する、大方の人がそのような考えを持っている、その

中に身を置いたほうが、正しいという様な風潮が目に残るようになってきた気がします。本当はどうなのだろう。異なる答えがあるのではないかと、疑って、物事がナナメから、あるいは反対側から別の答えを出すことを考えて行かなければならない、そんな気がします。

今日の高齢化社会にあって、その一例をあげてみました。

(県議会議員)

☆慈眼寺第九世★

慈眼寺の住職は、開山義山（一八四八年没）、二世巨海、三世卓成、四世道宗、五世宗苗、六世黙笑、七世黙定、それに現住の八世浩道と続いてきました。その浩道和尚も七十歳を過ぎ、そろそろアチラからのお呼びもかかりそうな年に近づきました。

今まで後継について、皆様方から陰に陽にとご心配をおかけしてきましたが、この度、浩道次男の春日井律が後を承けてくれることになりました。いままでも親に心配をかけさせるような、本当に不東者でありましたが、中年にさしかかり、思うところもあったので、と察せられます。

十月の初めに得度をいたしましたし

た。これは出家のための最初の儀式です。続いて、僧堂修行を含めて、首座法戦式、瑞世、晋山式と執り行なって住職に仕上がっていきます。十年くらいの間には、なんとか引き渡すことができることを願っています。この時節、僧侶や住職の社会的な役割もいろいろ変わっていくことでしょう。それに応じた広い意味での修行も必要になってくるでしょう。未熟者ですが何卒よろしく願い申し上げます。



写真は、得度式のもので、これ以後、僧名は律舟（りつしゅう）と呼びます。舟はこちら岸からあちら岸（彼岸）にわたる手段です。少しでも世のお役に立てればと思います。

★ごあいさつ 律舟

得度式を行い、今は安居先の僧堂の準備や墓の草むしりなどをやっております。ガンバって勉強します。よろしく願いいたします。

平成二十八年度年忌表

来年の年忌は次のとおりです。お早めにお申し込みください。

年忌	逝去年
一周忌	平成二十七年
三回忌	平成二十六年
七回忌	平成二十二年
十三回忌	平成十六年
十七回忌	平成十二年
二十三回忌	平成六年
二十七回忌	平成二年
三十三回忌	昭和五十九年
三十七回忌	昭和五十五年
四十三回忌	昭和四十九年
四十七回忌	昭和四十五年
五十回忌	昭和四十二年

各戸別の年忌はホームページでも見られます（過去帳閲覧）。

行事予定

- 二月十一日 大般若会  
正午から詠讚歌奉詠  
一時から法要、参拝者には健康饅頭がもらえます。
- 二月十五日 涅槃会  
十時から法要と詠讚歌奉詠
- 四月八日 灌仏会  
十時から法要と詠讚歌奉詠  
甘茶を頂いてください。
- 八月十八日 お施餓鬼  
棚経は八月十日くらいからです。詳しくは次号でご案内します。

## ☆説法(修証義)★

住職 春日井浩道

今日は修証義の第二章・懺悔滅罪についてです。懺悔はザンゲとも読みますが、ここではサンゲです。懺悔とは、辞書によると、聖なるものに対して、自分の悪業を告白し、悔い改めること、とあります。

もともとは、原始仏教の教団に色々な規則があり、その規則が守られているかを、自主申告によって確かめ合っただけです。しかし、この規則がどんどん増えて、窮屈すぎるものになったようで、お釈迦様が亡くなった時には、一部に「せいせいした」という雰囲気もあったようです。それはともかく、こうした自主申告によつて、反省を促し規則を守らせることは、心の改善を目的とした教団では、それなりに合理的な面があったのでしよう。

こういう懺悔がだんだん変化して、今では仏門に入る前に、今までの間違った行為を反省して、悔い改めるといふ、形式的なものになってしまいました。この間違った行為というのは、一般的な道徳に反するくらいの意味でしょう。

お経の文句に従っていきますと、お釈迦様は、とても慈悲深いので、我々のために、悟りへの道を開い

ておいてくれました。この道を信頼して進めばいいのですが、スタート時点の心の持ちようは、やはり修行の成果にも影響が出てくるものです。そこで、スタート時点に、いままでの心の清算をしてしまいましよう、ということになります。心晴れ晴れと修行に邁進するためです。ここで前仏に懺悔すべし、と言っています。前仏とはお釈迦様という意味ではなくて、目の前にいる先輩師匠という意味だと思えます。具体的な人に懺悔することが、誰かに聞いてもらったという、信頼と連帯感につながってくるからです。

また文言に戻れば、私は今までいろんな間違いをしてきましたので、悟りの妨げになるかも知れません。反省して心を入れ替えて励みますので、どうかよろしくお導きください。そして修行の道が全うでき、その功德が満ち溢れるようになりましよう。お釈迦様も昔は我らと同じ凡夫だったのでしよう。逆に我らも努力すれば、お釈迦様と同じレベルに達せられると信じます。そして懺悔文

「我昔所造諸悪業」(がしゃくしょぞうしよあくごう) 〓私は昔からいろんな間違ったことをしてきました。

「皆由無始貪瞋痴」(かいゆうむし

とんじんち) 〓それらは皆、再現のない欲深さ、怒り、愚かさによるものです。

「従身口意之所生」(じゅうしんくいししよしよう) 〓それが私の体や口や気持ちを通して、悪業となつて出てくるのです。

「一切我今皆懺悔」(いっさいがこんかいさんげ) 〓私はいまこれらすべてを告白して心を入れ替えます。

このように懺悔すれば、身も心も晴れ晴れとして、修行の成果も捗ることでしょう。

ということなのですが、この懺悔文は、お葬式の始めに唱えられます。これは、亡くなった方が、仏の弟子となつて、仏道修行に入られることを擬制しているのです。

いずれにしろ、自分の悪業を洗いざらい告白するというのは、本当はとても勇気の要ることだと思われます。なぜなら、誰しもみんな自分は一角の者であり、間違いなどするわけがないはずだと思つているのであつて、なんだかんだと取り繕つて言い訳を考えるのが凡人なのですから。昔、容疑者取り調べの刑事さんに聞いたことがあります。本心に引き出した時には、容疑者も刑事もぐしやぐしやになつて泣くのだそうです。それくらい自分の悪業の告白

は大変なことなのでしょう。だからこそ、修行の第一に挙げられているのかもしれないね。

## ★相手の言い分☆

イスラム国というのがフランスでテロを起こしました。以前にも風刺漫画の新聞を襲ったことがありました。今回は、フランスがイスラム国を空爆したことに對する報復だと言っています。今回のテロでは、全く一般の市民が対象となり、イスラム教徒さえも巻き添えになったといひます。

それについて先日イスラム国にも言ひ分があるのでは、という意見を新聞で読みました。イスラム国でも空爆で罪のない一般市民がもっと沢山殺されているのではなからうかと。私たちにはイスラム国 〓悪の構図しか報道されていません。三日月のように光の当たる方しか見えていないのです。でも本当はどうなのでしょう。

百年ほど前まであつたイスラムの大帝国を勝手に分割してしまつた西洋諸国にはなんの落ち度もないのでしようか。フセインの独裁を気に入らないと言つて滅ぼしたアメリカにも本心は責任があるのではないか。自分たちは正義、相手は悪だという構図は、いつまでたつても悲劇を呼びます。

## 来年もよろしく お願いします

檀方総代

伊藤辰男	伊藤久幸	伊藤秀文	伊藤正廣	大野和義	大野悟	木村廣孝	春日井浩道
住職	々	々	々	々	々	々	々

### ☆長生き再考★

先日「こんな意見を読みました。『長生きでいいですね』と言われて、何がいいものか、やることもなく、痛みをこらえて病院通いしているだけだ、というお婆さんの言葉でした。

私の母も、九十六歳になりましたが、特別養護ホームで転倒し、骨折して、現在リハビリ中です。今はただ「お迎えを待っている」状態なのです。待っているだけでは退屈だろうから、といろいろ勧めてみますが、耳も聞き取りが悪く、目もよく見えないので、結局座っているだけしかありません。ただ食べ物だけは、食事も美味しく全部食べられるので、唯一の生き甲斐なんでしょう。

母の兄も九十三歳くらいまで生きましたが、自分よりも前に息子二人を亡くしてしまい「長生きはするもんじゃない」が口癖でした。

確かに日本は、寿命だけは世界一になつてきているといえます。昔に比べれば、栄養もよく、医療も発達して、住宅事情もよければ、寿命は伸びるでしょう。しかし、伸びた寿命が、痛みをこらえ病院通いにしか充てられないのでは、何のための長寿なんでしょうか。自分の身につまされて考え込む毎日です。

### ★おみこしの行方☆

最近、昭和の戦争についての本を読みました。なんと、あの一連の戦争は、ホンの四、五人の意思決定者によって進められたようなのです。曰く、永田鉄山、石原莞爾、武藤章、田中新一。東條英機などはむしろ流れに乗って動いただけのようです。

しかも、彼らが戦争に向かう意思決定をしたのは、陸軍省や、参謀本部の課長クラスで、みんな四十台くらいなのです。そもそもは陸軍の長州閥に反対する運動として動き出したようなのですが、結局、彼らのグループでの主導権争いに発展し、最終的には三百万人が将棋の駒のように死にました。主導権争いの論点は戦略上の差になつて発現していたようです。石原などは、満州をとつただけで、良しとしていたものが、次の武藤

あたりになると中国全土、やがては東南アジアの資源までを狙うようになっていきます。

今から考えてみれば、そんなこと許されるはずもない戦略だったのでしょうか、当時は大真面目に議論され実行されたようです。その資源確保も、全ては対米、対ソ連と戦争するためだったようです。彼らはみんな、陸軍大学出の大変な秀才ばかりだったようです。でもそれは試験勉強に向いていただけだったようです。他の人たちは黙つてついていただけです。

### お仏膳の受付をしています

来年の月命日お仏膳の受付をしています。今まで通り、一年一膳あたり千五百円です。お供えのお菓子はお下がりと持帰りください。

### ★編集後記☆

宝永四年（一七〇七年）旧暦十月四日、南海トラフを震源とする大地震がありました。全国で死者二万人ほどになり、東日本大震災が起きるまでは、日本最大規模の巨大広域地震でした。

ちょうどそれから四十九日後、十二月十六日お昼近く、富士山東側斜面に亀裂が発生し、そこから

噴火が始まりました。その噴火は十六日間にわたつて続き、小田原藩では、被害地元の食料供給など、救済対策を即時実施したものの、あまりに被害が大きく、幕府を頼るに至りました。幕府は、例外措置として、被害地を一時的に直轄領とし、関東郡代であった伊奈忠順という男を復興奉行として対策に当たらせました。

小田原藩十萬石の半分以上が灰に埋まってしまった状況で、忠順は独自の判断で、勝手に幕府の米倉を開き、一万三千石の米を飢民に分け与えてしまったそうです。この勝手な行為を咎められ、忠順は罷免され、切腹までさせられてしまいました。四十歳だったそうです。ずっと後になり、忠順に救われた民の子孫たちが、須走というところに伊奈神社を作り、顕彰したそうです。

いろいろな不祥事の目立つ日本の政治家さんたちも、こういう話を見習ってほしいものです。

「慈眼寺たより」第十九号  
平成二十七年十二月十日発行  
ホームページ

http://www.ma.ccnw.ne.jp/  
igenji/